


感染症分野

研究領域

「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2022年	研究期間	5年間
研究課題名	革新的技術を活用したマラリア及び顧みられない寄生虫症の制圧と排除に関する研究開発	貢献する主なSDGs	
研究代表機関	国立研究開発法人国立国際医療研究センター 熱帯医学・マラリア研究部		
相手国	ラオス人民民主共和国	主要相手国研究機関	ラオス国立パスツール研究所 (IPL)
研究課題の概要			
<p>ラオスでは現地の検査方法では診断できないマラリア、淡水魚の生食によって感染するタイ肝吸虫症、メコン川に入ることによって感染するメコン住血吸虫症などの寄生虫症が、医療施設から遠い僻地の村で流行しており、公衆衛生上の問題だけでなく経済発展の妨げになっている。そこで本プロジェクトでは国立国際医療研究センター(NCGM)とラオス国立パスツール研究所(IPL)が中心となり、これら寄生虫症の診断技術とサーベイランス能力の向上、パルス電流により魚に寄生するタイ肝吸虫を殺して生で食べられる安全な魚を提供する技術の研究開発、僻地に暮らす少数民族への健康教育などを実施し、SDGsの目標の一つ「すべての人に健康と福祉を」の達成に貢献する。</p>			